

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	満快のふる郷さくら東苗穂 2階	評価実施年月日	平成21年10月31日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成21年11月3日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	独自の理念として「六つの誓い」がある。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	朝の申し送り時に「六つの誓い」を唱和し、日々のケアで理念の実践にむけ取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族へは契約時に説明を行っている。地域の人々への理念の理解の取り組みとしては不十分である。	○ 計画的に地域運営推進会議を行うのと、町内会の行事への参加を行い地域との関係を構築していく。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近隣に小学校があるので小学生や近所の方に会えば挨拶をするように心がけている。但し気軽に立ち寄ってもらえる日常的なつきあいというのはまだまだ出ていない。	○ 限られた一部の地域住民としか付き合いがないため、町内会の行事へ積極的に参加し、定期的に便りの発行を行う。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	コンビニ、スーパー、児童会館や公園で地元の人たちとの交流に努めているが、地域活動には参加できていない。	○ ご利用者様も含め、地域活動への参加を年間又は月の計画としてたてて行っていく。
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域貢献を兼ねてリングブルの回収を行っている。また、公園付近の落ち葉拾い、ゴミ拾いを入居者様と行い、地域環境の美化に努めている。	○ 事業所の建物を活かし防災時への施設の開放や我々が日々学んできていることについて(認知症、介護等)勉強会等を開催し地域高齢者とのつながりを作る。又近隣の環境整備(清掃等)できる範囲で行いたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	改善については会議等で話し合い改善に取り組んではいるが、すぐに実行できることは行えているが、できないものもある。	○ すぐに取り組める事は実行し、どの職員も確実に実行できるように年間の計画として立て実施、評価を行っていく。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	2ヶ月に1度運営推進会議を行い話し合い等は行っているが、話し合いの場としての回数が少ない。	○ 短時間でも話しある場を設ける。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	市町村担当者との連携は毎月の入居状況報告のみとなっている。	○ こちらから積極的に連携がはかれるように努め、地域運営推進会議等の報告、参加の呼びかけを積極的におこなう。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	学ぶ機会は少なく、制度に関する理解については職員によってばらつきがある。	○ 権利擁護の制度について研修等、学べる機会として年間の計画を組み立てる。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	一部職員は外部の研修に参加、先月全体会議で高齢者虐待について学んだ。	○ 制度について研修等、学べる機会として年間の計画を組み立てる。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	契約・解約の際に詳しく説明し、理解・納得を図っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日々の関わりの中で意見、不満、苦情を表しやすいよう、雰囲気作りを行っている。意見や苦情が出た場合に真摯に受け止め、早急に改善を図るとともに記録、報告書を全職員に周知させている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	月に1度、預かり金台帳や領収書の送付とともに担当者からの近況報告をお手紙に同封している。必要に応じて電話連絡や、来所時に口頭での報告を行っている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎月送付する手紙にご家族からの意見欄を設けたり、管理者、担当者が話しをする機会を設けるように心がけている。意見や苦情が出た際は報告書を作成し、原因と対策を立て、全職員へ周知している。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的に管理者との面談を行い意見の集約や改善に向けて活動している。又職員の中から代表者を決め、各職員の意見の集約を行い運営者への意見としてあげている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	人員不足の為、柔軟な対応はできていない。	○	ゆとりのある人員の確保に努める。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	離職等については原因を検証し、対策をたて必要最小限に抑えるよう努めている。離職や異動があった際は入居者様の状態に応じて、お伝えしない、その後のフォローをする等配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	OJTのマニュアルに沿って個々の能力に応じたOJTを行っているが、人員不足や期間が短い等の問題がありゆとりのあるOJTにはなっていない。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	研修や講座、管理者連絡会議等を通じて同業者との交流がある。	○	一般職が研修や講座へ出席する機会を増やす。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	新年会や事業所との交流行事を設け、楽しめる、相談ができる場の提供を行っている。		
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	個々でチャレンジシートを作成し、その上で面接を行い、目標へ向けて努力している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご家族の協力を得て情報収集を行い、又利用に至るまでにご本人との面談をし、ご本人の思いを知ることで信頼関係を築くようにしている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前にご家族と面談し、不安や疑問が軽減できるよう親身な対応に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人の状況、ご家族が困っている事など、今現在何を必要としているのかを伺っていいより良い方向性をともに考えるように努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前の情報やご本人との会話の中から得た情報を踏まえ、職員間での話し合いをし、ユニット内の環境整備等工夫することに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	昔の苦労話しや、つらい出来事等話された時や日常でも楽しんで頂けるよう工夫をし、一緒に泣き笑っている。又マナーや調理方法、昔の知恵、感謝の気持ち等を教えていただきながら関係を築いている。	○	昔の知恵を活かし、買い出しから調理等を一緒に行いたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	イベント時や定期的に来訪されるご家族については入居者様への支援について、相談・協力依頼を行えているが、来訪の少ないご家族もおりに一緒にご本人を支えていく関係の構築に努めていく必要がある。	○	行事や外出支援等、現在より声を掛けながら相談し支援を行っていたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族が来訪した際には、ご本人とゆっくりと過ごせるよう配慮している。ご家族へは日頃の様子を伝え情報の共有を図っている。又行事等を企画しご家族とご本人が疎遠にならないように努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの方と会ったり、連絡を取り合ったり、馴染みの場所へ出かけられるよう可能な限り支援している。	○	現在より、ご利用者、ご家族と相談しながら、ご本人様のなじみの人、場所との関係が途切れないように支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	体操やゲーム等のレク活動を行い、職員が間をとりながら、入居者様同士の交流を作っている。又、食事の準備や盛り付け、洗濯物をたたむ等で入居者様の間で分担したり、時には交代されたりと協力している。	○	会話や好む過ごし方の違い等過ごす場所を変えたりし、入居者様同士が関われるように一人一人が活躍できるように働きかける。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	病院、その他事業所への転居されることになった入居者様に会いに行ったり、サービス終了後もお手紙を頂いたりしている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人との会話やケース記録・センター方式を活用し、ご本人の思いを受け止め意思の尊重をしている。	○	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前にはご家族、ご本人との面談を行い、情報の収集を行っている。又出来る限り、入居時にご家族にセンター方式への記入を行って頂き、情報提供の協力を頂いている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	センター方式・生活チェック表を活用したり、職員間でも情報共有を行いながら、様々な作業等を通して、ご本人の状態の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	月に一度の会議を行い、モニタリングし課題を検討している。ご家族の来訪時、電話の際に意向を聞き、介護計画に反映するよう作成している。	○	職員一人一人が介護計画を理解し、全員の意見をさらに反映した計画を作成していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	○	計画作成をするための時間を計画的に作りおこなっていく。
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	○	記録へ書ききれていないこともあり、ケース記録への記入の仕方等を工夫して行いたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	○	グループホーム管理者連絡会議や地域運送推進会議等で他事業所の取り組み等を参考にしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	○	地域資源については現在よりも協力が得られるように連絡調整等行い密にしていきたい。又こちらからの地域への行事等へ盛んにおこなっていく。
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	○	必要に応じて、協働していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	提携医があり、状態に応じて相談している。また必要時等電話連絡をし現在の状態を事前に伝えるようにしている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症の専門医がおらず、精神科や脳外科への相談をしている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	提携医の看護師には常態に応じ随時相談を行っている。	○	
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	医療機関、ご家族と連絡をとり入居者様の状況把握に努めている。得た情報を元に話しあい退院後の支援方法や環境改善に努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合・終末期のあり方については出来るだけ早い段階に関係者との話し合いが十分に行われているとはいえない。	○	ご家族、ご本人、かかりつけ医と現在の状態から今後どのようにするかを見据えて話し合いを設けていく。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	できること・できないことは明確であるが、チームとしての支援の在り方については、経験不足な面もあるため話し合いを重ねていく必要がある。	○	職員一人一人の意識の向上や重度化や終末期についての話し合いをすすめていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	ご本人、ご家族、関係機関より情報を得てダメージ防止に努めている。また、退居して他に移る場合は、情報提供を行い住み替えがスムーズに行えるようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	共同空間での声かけに配慮が必要な場面がある。記録については実名を避け記入している。	○	場面に応じた声掛けの配慮ルールを作り徹底していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	分かりやすい説明、自己決定のしやすい声掛けを心掛けている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ひとりひとりにあったペースを心掛けているが、日によってこちら側の都合になってしまうことがある。	○	職員同士で連携をとり、1日の時間配分や配置を考慮し、一人でも多くの入居者様の希望に沿うように努めたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	理容、美容については訪問美容を使用しているが、訪問美容は楽しみにされている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事のメニューは全員同じものを提供しているが、その方にあつた量や形状に変えて提供している。食事準備や片付けについては出来る方には負担にならないようにご協力いただいている。	○	現在より好みの味付けや、健康に配慮した食事を提供していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	現在喫煙される方はいないが、受動喫煙、防災の事もあり喫煙場所を決めている。飲み物、おやつ等に関しては健康に配慮し提供しよう心掛けている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	リハビリパンツ、パットを使用している方もいるが排泄パターンを把握できるように、生活チェック・水分排泄チェック表を活用し、声掛けにてトイレでの排泄ができるように支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	あらかじめ入浴日の設定をさせて頂いてはいるが、ご本人の要望にお応えして対応している。自ら要求されることが少ない方は定期的に入浴できるように支援している。	○	現在より入浴への支援を滞りなく、ご本人様が楽しんでいられるよう、職員が柔軟に対応できるようにしていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入浴等でリラックスをはかれるようにしたり、眠れないときはホットミルクや軽食等を提供し安眠を促している。必要に応じて休息を促したり対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	以前よりは、役割や、楽しみを持って過ごしている方が増えてきている。気晴らしの支援としては、外出、買い物等にお誘いし支援している。	○	生活歴からその方の興味が持てること等を付度し環境を整える。こちらからの働きかけを増やしていく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の管理ができる方は、ご自分のお部屋に置いている。管理ができない方でも、買い物等の支払いの際にお金を手渡しして支払って頂く等支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	外出する方、しない方に偏りがあるがあるが、散歩やベランダ、買い物等に出かけられるように支援している。	○	時間の配分や人員配置を計画的に行うように努めたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ドライブや公園等に行ってはいるが、頻度としては少ない。	○	企画をたてて実施していくように努めたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	希望時には随時支援している。	○	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも来訪して頂けるよう説明している。来訪の際は、近況報告、飲み物をお持ちする以外の訪室を避け、ゆっくりと過ごして頂けるよう努めている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	拘束をせず、入居者様の安心・安全が守られる方法を考え実践しているが、まだまだ研修が必要である。	○	全体会議等で定期的に研修の場を作り実施していく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	防犯上、夜間のみ玄関の施錠をしているが、日中は鍵を掛けず、自由に入出入りされている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員間での声掛けやリビング内には必ず職員が待機し、入居者様の所在確認・安全の配慮を心掛けている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	誤飲や異食の危険のある方に関してはホームで管理をさせていただいている。物によっては入居者様の目の届かない所に保管し事故防止に取り組んでいる。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故やひやりはっと報告があった場合は、その月のカンファレンスで話し合いを行い、職員間での共通した事故防止策に取り組んでいる。	○	事故防止への取り組みを、新人職員含め全員で取り組めるようにしていく。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	すべての職員が完全に行える状態ではない。	○	防災協会や消防に協力を仰ぎ、定期的な救急法について訓練を行う。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回の防災訓練を実施しているが、職員の入れ替え等もあり完全に行えるか不安がある。	○	防災マニュアルを防火管理者、消防と協力し細かなマニュアルを作成し周知徹底を行う。 地域住民へは町内の防災訓練の参加や勉強会等を企画し連携できるようにしていく。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	介護計画の説明時や随時ご家族への相談・報告をし、ご本人にとって最良のケアは何か話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝バイタルチェックを行っており、身体状況の変化も日々観察している。夜間帯も巡回を定期的に行い、異変の早期発見に努めている。対応や、対策については申し送りや、連絡ノートを使用し職員間で情報を共有している。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の目的や副作用等は、医師、看護師より説明があり、連絡ノート、申し送り時に職員へ周知している。症状の変化についてもケース記録、申し送りで周知している。	○ 要注意な薬等、薬に対しての知識の勉強会を行う。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	乳製品(牛乳、ヨーグルト、ヤクルト等)果物、青野菜等を提供するよう心掛けている。朝食後のトイレの習慣をつけて頂くようにトイレ誘導を行っている。	○ 軽い体操の実施。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	一人一人の状態に合わせて対応し、磨き残しがある方はこちらで介助させていただいている。毎食後行えないときもある。	○ 確実にこなっていけるようにしていく。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分チェック、生活チェック表に記入し、適切な水分・食事を提供するようになっている。ただ水分について足りない方がいる。	○ 水分について水分に代わるもの等工夫してとれるようにしていく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種は、入居者様・職員とも実施している。感染症に関しては浴室・キッチン等に表示し知識を深めるようにしている。	○ 感染症についての学習を定期的に行うようにする。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食品については表示にしたがい保存し調理具等は夜間漂白、消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	閉鎖的な作りではなく、玄関、建物周辺には花壇を作り親しみやすく工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	置物の整理整頓が必要。不快な音はなくカーテン等で光の調節に気を配っている。	○	サロン等の整理をし常時置物等整理がされているようにする。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合う入居者様同士がゆっくりと過ごせるように席の配置を工夫したりしている。	○	
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時には、なるべく使い慣れた物や好みのもを持ってきて頂き、少しでも居心地のよい生活となるよう工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日の清掃時には換気を行っている。暖房の温度調整をこまめに行い、体調管理に努めている。空気清浄機を使用している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。</p>	<p>居室からリビング、トイレ等への動線に障害物を置かないようにしている。リビング・トイレ等の手すりは平均身長に合わせて取り付けをしている。</p>	<p>○</p> <p>居室内のペットや家具のは配置を身体状況や、危険がないか定期的な見直しを行うよう管理していく。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>出来ることへの見極め、一つ一つの動作に対して分かりやすく、動作を交えながら伝えるようにしている。</p>	
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>夏場はベンチイス等の設置を行い、畑での活動や日光浴ができるようにしている。</p>	

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない ②
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ③
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない ①
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ③

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ②
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない ③
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ②
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない ②

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
ご利用者ともそうだが、職員間でもコミュニケーションをよくとるようにしている。